

ホスピタルのピカリと光る取り組みを追う

ホスピカ!

医療法人社団明芳会 イムス板橋リハビリテーション病院

薬剤情報を見える化

全入院患者の処方情報を管理 薬剤の適正使用に貢献

入院時カンファレンスでは、薬剤情報を多職種で共有している

退院後を念頭に置いた多職種でのケアを提供するイムス板橋リハビリテーション病院。同院の薬剤師は、すべての入院患者の服薬にかかわることで投薬の切り替えミスが減らすとともに、多職種のカンファレンスでの情報共有に活用している。

全入院患者に薬剤師が関与 服薬情報を整理、誤嚥防止

医療法人社団明芳会イムス板橋リハビリテーション病院は、患者が希望するその人らしい人生を実現するための「人生の回復期病院」をめざし、退院後を念頭に置いた多職種でのケアを提供している。同院では病棟それぞれに1人ずつ薬剤師を配置し、患者の投薬情報の把握をすることで減薬や、薬による有害事象を防止・回避するブレアポイドを報告し、患者の健康被害の回避や軽減に努め、患者のQOL向上に貢献している。

取り組みのきっかけとなったのは、2009年に入院患者の持参薬の鑑別や院内採用薬への切り替えでミスが起こりやすかったため、入院患者全員に薬剤師が関与し、問題の起こりにくいシームレスな体制を構築した。

入院の際には患者に対し面談を行い、本人、家族から服用履歴、外用薬の使用法や不眠、便秘状況などを詳細に確認している。また、

面談だけでは情報が不十分の場合は、かかりつけ薬局やかかりつけ医などにも確認を行い、患者の投薬情報の収集に努めている。持参薬管理表・継続確認書(以下、管理表。表参照)を作成し、患者の服薬状況の見える化により、誤薬や多剤処方への防止につなげる。管理表は、集めた情報だけでなく採用薬の有無や代替薬品候補も記載している。

実際に、急性期病院で手術後に転院してきた患者で、処方薬の名前の始まりが似ているため誤った処方となっていたことがある。このほかにも、不眠などの状況と持参薬に含まれる睡眠薬の状況から重複受診・多剤処方への恐れがあるといったことが明らかになる場合もあり、そうした患者の対応を医師に指示を仰ぐ際も、理由を明確に示しやすくなった。また、情報に基づき医師に継続・中止などの指示を仰ぎ管理表を作成、再調剤も行っている。同時に、持参薬の切り替えを実施し、電子カルテの代行入力も行っている。

河邊紅仁薬剤部長は「入院時カン

表 持参薬リストを作成し、服薬情報を見える化

患者ID		主治医	
患者名		薬剤師	
生年月日	年 月 日 (歳)	病室	3階病棟 303

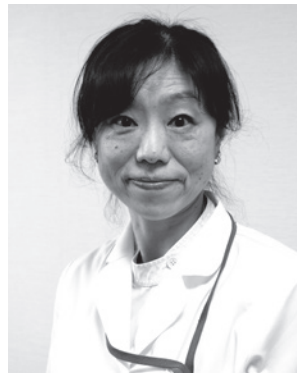
No	継続指示	識別コード	薬品名 (薬効)	採用	持参薬用法					数量 日数	代替薬品候補	備考
					用法	朝	昼	夕	夜			
1		ラン	ランプラゾールOD錠15mg「武田チバ」 (消化性潰瘍用剤-その他の消化性潰瘍用剤)	×		1				3錠 (3日)	【同種】 ランプラゾールOD錠 15mg「トーワ」	
2		TwAT/15mg g.TwAT	アンロキソール塩酸塩錠15mg「トーワ」 (去たん剤-その他の去たん剤)	×		1	1	1		9錠 (3日)	【同種】 アンロキソール塩酸塩錠15mg 「ケンコー」	
3		KCI11/330 mgKCI113 30mg	マグミット錠330mg (制酸剤-無機塩酸製剤)	×		1	1	1		9錠 (3日)	【同種】 酸化マグネシウム錠330mg「ケンコー」	
4		TA102/TA 102	アスパラカリウム錠300mg (無機質製剤-その他の無機質製剤)	○		2	2	2		18錠 (3日)		
5		NP212/20/ NP212	フロセミド錠20mg「NP」 (利尿剤-その他の利尿剤)	×		1				3錠 (3日)	【同種】 フロセミド錠20mg「武田チバ」	
6		TA/tTA25 mg	スピロラクソン錠25mg「チバ」 (利尿剤-抗アルドステロン製剤)	×		1				3錠 (3日)	【同種】 スピロラクソン錠25mg「トーワ」	
7		TA11/0.62 STA1t0.62 5	メインテート錠0.625mg (不整脈用剤-β-遮断剤)	×		2				6錠 (3日)	【同種】 ビソプロロール錠0.625mg「日工」	

調剤方法	ヒート	処方医療機関	東京都健康長寿医療センター
備考			

持参薬継続指示	医師	看護師	薬剤師
年 月 日			

イムス板橋リハビリテーション病院

	薬(内服)	薬(外用)	お薬手帳	薬情	その他
お預かり					
返却					



河邊紅仁薬剤部長

フランスの際に、見える化した服薬情報を多職種へ提供することで、多職種の職員はどのような薬を飲んでいくかを把握でき、薬の影響を踏まえたリハビリや看護を

提供できるようになった」と話す。入院中には患者の容態を確認し、薬剤の用量、相互作用、禁忌、副作用のチェックを行い、カルテなどの情報とともに、容態にあった服用回数・剤形変更を医師に提案している。また、服薬管理の状況について看護師などとも連携すること、退院後の生活で患者自身が管理を行うのか、家族が管理を行う必要があるかの評価も行っている。退院時には、全入院患者を対象

医療法人社団明芳会

イムス板橋リハビリテーション病院

脳血管疾患系の患者を中心に運動器系疾患、廃用症候群などの患者を公平に受け入れ、「障がいと共に生きる患者さん」の社会復帰の手助けをするため「多職種連携・他職種協働」のもと、多くの医療従事者が一丸となって365日リハビリテーションを提供している。



住所：東京都板橋区小沢3-11-1
 TEL：03-3967-1183
 URL：https://ims.gr.jp/itariha/
 病床数：153床
 診療科：リハビリテーション科、内科、循環器内科、神経内科、心臓リハビリテーション科
 職員数：348人(医師9人 看護師80人 薬剤師6人 セラピスト125人)

として、かかりつけ薬局へ入院中の経過が把握できるように、▽入院前の服用薬、▽入院中の薬剤の変更・追加・中止、▽退院処方薬の情報や副作用、▽管理状況▽コンプライアンス情報、▽便秘・不眠等——をサマリーとしてまとめ、情報提供を行う。

17年、イムスリハビリテーションセンター東京葛飾病院の開院時には、短期研修として薬剤師を受け入れノウハウを提供。同院からは、「当院があるのは、板橋リハビリテーションで指導を受けたおかげ」との声も聞けたという。

在宅薬剤師との橋渡しし退院後の経過観察を強化

今後の展望として、退院後支援の充実を挙げる河邊薬剤部長は「リハビリ部門では、退院後の患者さん宅を訪問し、多職種事例検討会を実施しています。薬の管理を息子夫婦が行う形で退院したが共働きだったため、患者さんの服用がうまく管理できていなかった事例が過去にありました。退院後も見守りができるよう、調剤薬局の在宅薬剤師との橋渡しに力を入れていきます」と思いを語った。